

2月1日午前 思考力特待入試 個人探究**【出題の狙い】**

- ① 情報を正確に受け取り、その情報をもとに思考したことを言葉で整理できること。
- ② 一見多くの人があたり前と思うことを、多様な視点からとらえることができること。
- ③ 物語をつくる課題を通じて、考えたことを言語化して表現できること。
- ④ 試験全体を振り返り、自分自身の気づきや疑問に思ったこと、今後探究したいことを自分の言葉で説明できること。

【結果講評】

問題のテーマは「はかる」でした。問題の流れは次の通りです。最初に、データに基づいて考えることの大切さを意識するため、3つの資料から事実を読み取り、資料の解釈をもとに仮説を考えました。また、データの集め方の不適切さやデータを用いた主張の誤謬を指摘してもらうことで、データの信頼性と妥当性に意識を向けました。次に、日々の生活で「はかっている／はかられている」ものを挙げ、今後「はかられる可能性があるもの」を想像しました。その際、『「利他」とは何か』（集英社新書）の引用文から、はかることで望まない結果を生んだり悪用されたりする場面があることを知ったうえで、自分で考えた今後「はかられる可能性があるもの」の危険性についても考えました。そして、これまでの問題で考えてきたことを統合し、あるものが「はかれるようになった世界」（もしくは「はかれなくなった世界」）を想像し、物語で表現しました。最後に試験全体を振り返り、自分自身の気づきや疑問、探究したいことを言葉にしました。

全体としては、資料の読み取りはとても良くできていました。また、適切でないデータの集め方や恣意的なデータ分析の問題点も指摘できていました。日常生活のなかにあふれている「はかる」ことの意義と問題点を考察することで、新しい視点に気づき、自分自身の世界の見え方が変わった受験生も多かったのではないのでしょうか。今回の入試が探究の種を見つけ、新たな探究を始める第一歩になったら、と願っています。

【差が付いた問題】

差が付いた問題は【4】物語での表現と、【5】振り返りです。【4】で、今後「はかられる可能性があること」の意義と問題点を具体的に想像し、それを物語としての的確に表現できているかどうかで差がつかれました。物語のテーマが既に現在ではかられているものであったり、はかることによる世界の変化を十分に想像できていなかったり、物語で表現する際に説得力に欠けたりする答案が目立ちました。また、【5】で試験全体を振り返る際に、試験問題から派生して自分自身のエピソードや具体的な出来事との関連づけができていたり、自分自身の考え方について俯瞰して問い直していたりする答案は少ない印象でした。

////////////////////////////////////
【次年度以降の受験生に向けて：指導される先生へ】

日頃から、未知の課題について自分なりの意見を自分の言葉で表現するようなトレーニングが有効です。既に世の中でトレンドになっている課題だけを取り上げるのではなく、受験生自身の興味、関心、意見を言語化する機会があることが望ましいです。また、日常生活の中であたり前に思っていることに気付くことや、そのことについて様々な視点・立場・時間軸から問い直すことをおすすめします。

本試験では、解答の過程で新たな気づきを得て、その気づきをもとに思考を深めることを大切にしています。入試を通して、思考したことを整理・活用し、新しい視点を獲得しながら自分軸につながる探究へ発展させるための力や姿勢を育ててほしいとの期待をこめて、問題を作成しました。考えることを思う存分楽しめる、そして行動できる、そんな受験生の活躍を期待しています。

本校では、対話・ディスカッション・探究を通じて、自身の考えをもつことを大切にしています。その上で、的確に情報を収集したり、収集した情報を多角的に分析したり、クリティカルにとらえたりできることを理想としています。普段の生活の中でも、マスコミやSNSの影響で、私たちは無意識にさまざまな情報に振り回されているといえるかもしれません。しかし、世界はつながっていて、問題も解決策も繋がっています。複雑性が益々増しているこれからの時代に、私たちは、自分なりの視点を持ち、その考えや思いを表現できる人を育てていきたいと考えています。